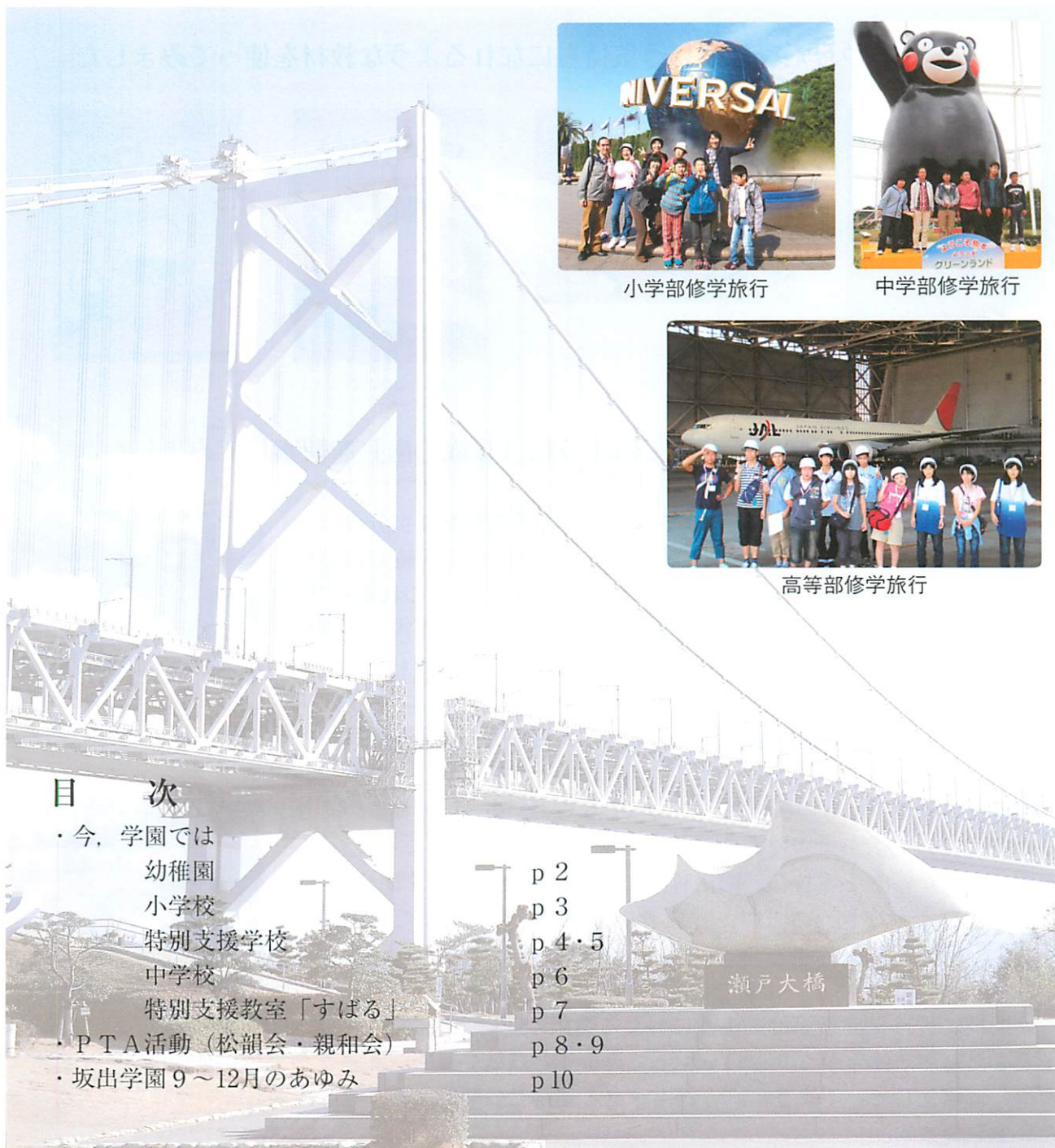


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第46号

2013.12



小学部修学旅行



中学部修学旅行



高等部修学旅行

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 特別支援学校 p 4・5
 - 中学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園9～12月のあゆみ p 10



—自分の歯，大切にしたいなあ—



幼児期は、さまざまな体験を通して健康づくりの基礎的な素養が培われる頃です。そこで、子どもたちが体の状態や変化を直接的に観察できる「歯・口の健康づくり」を通して自分の体の変化を意識したり、健康づくりへの意欲を高めたりしながら、自分の生活をつくっていかようとしている様子を紹介します。

5歳から6歳にかけて、乳歯がぐらぐら動き、抜けて永久歯に生え変わったり、第一大臼歯（6歳臼歯）が生え始めたりします。自分で感じる体の変化として、大きくなっていることを喜び、自分の歯・口の中の様子に興味関心を持ち始めます。「歯が抜けたよ」「大人の歯が生えてきたんだよ」「6歳臼歯が出てきたよ」とうれしそうに友達同士で話している姿も見られます。

○ 自分からやりたいなという気持ちになれるような教材を使ってみました。



保護者手作りのパペット



（3歳、はみがきだいすき）
ぶくぶくうがいも紹介



（4歳、はぬけのはなし）



（5歳 6歳臼歯）

○ 自分の体に興味関心が持てるように「6歳臼歯」を観察してみました。

「今から自分の6歳臼歯を見つけてみよう」と手鏡を配り自分の口の中や、歯の様子を観察することにしました。口を開けて手鏡で口の中の様子を見ている子どもたち。「ぜんぜん、わからん」「これかな?」「1、2、3、4・・・」と歯を順番に数え始めたり、テーブル内で友達の手鏡や口の中をのぞき込んだりして、とても興味津々な様子でした。



○ 保護者の方の意識を高めるため、「親子で歯科健診」をしました。

保護者の方に子どもの歯の様子を知ってもらい、歯・口の健康づくりには家庭での生活が大切であることへの理解も得られる場となりました。事前にアンケートを実施し、園歯科医に直接気になることを聞けたり、指導を受けたりできたことで、保護者の方の意識も高まったと感じています。



幼児期に行う保健指導は、生涯にわたる健康の基礎を培うとても大切なものであるといえます。子どもたちが、健康づくりに自らやってみようという意欲を持ち、友達とかかわりながら知識や技術を習得し習慣化していくように、今後も家庭と連携し長期的に繰り返し援助していくことを大切にしたいと思います。

「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり（2年次） —特別支援教育の考えを生かして、すべての子どもの思考活動を保障する—

「全員が分かる・できる」を求めたユニバーサルデザインの授業づくりを、本校では「思考力」育成に向け、研究を進めています。2年次となる本年度は、「思考力」を支えるのは「意欲」や「知識・技能」といった要素であると考え、授業でねらう「思考力」に応じて要素を明確化し、それらを全員にもたせられるよう特別支援教育の考えを手がかりに働きかけを行っていきます。

研究授業

3年 理科「かげのひみつ —太陽とかげの動きを調べよう—」

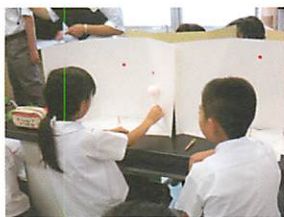
さいき ともや
濟城 智哉

晴れた日には、いろいろなものの影を見つけることができます。その影はどれも同じ方向にできており、時間を変えて見ると影ができた方向と長さが変わっていることに気がきます。そこで本時は、観測したいいくつかの時刻にできた影の位置を比較し、太陽の動き方を捉える力の育成を目指しました。



【太陽の位置を確認】

太陽の動き方は、太陽の位置を方位や高度を手がかりに捉える必要があります。しかし、太陽は遠い空間にあるため捉えにくく、影と太陽の位置関係を想起できない子どものつまづきが予想されました。そこで、矢印で簡略に示したプレートを使わせることで、「できた影の反対側に太陽がある。」と確認することができました。



【太陽の動き方を説明】

また、太陽の高度と影の長さの関係が一日で分かる太陽高度モデルを教具として用いました。高度を示す傾きの部分を強調することで高度がどれくらいか分かり、3時間おきの結果を調べることで変化していることを知ることができました。また、太陽高度モデルを実際に操作することで、太陽の高度と影の長さとの関係を確認しようとする子どもが現れました。ペアによる交流では「影は西から北を通過して東へ動くから、太陽は東から南を通過して西へ動きます。長い影は短くなり、また長い影になるから、太陽は低い所から高くなり、また低い所へ動きます。」と太陽に見立てた球を動かしながら説明し、太陽の動き方をより明確に捉えた子どもの姿が見られました。

4年 社会科「守れ！さぬきのお米 —消費者の求めるお米とは—」

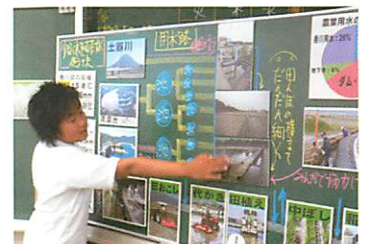
わたなべ たけし
渡部 岳史



【雪の降る月を色分け】

本単元で扱う農業、特に稲作は、多くの課題を抱え、岐路に立たされています。特に高齢化の問題は深刻です。稲作の盛んな庄内平野でさえ農業従事者の平均年齢は65歳、65歳以上が占める割合は56%を超えます。香川県では70%を超え、全耕地面積に占める耕作放棄地の割合も約15%で、より深刻な状況です。我が国の稲作がどのように営まれ、そして、今どのように変化しているのか、その意味や価値を考えることの意義は大きいと考えました。そこで、「時空間、立場の広がりの中で稲作に関する自然環境と携わる人々の営みを相互に関係づけ、我が国の農業の意味や価値を捉える力」を本単元の思考力として設定しました。

本時は、県内の稲作農家の現状を知った子どもたちが、香川県の米づくりを元気にしようとそのヒントを稲作の盛んな庄内平野に求めました。そして、前時までに庄内平野の米づくりが盛んな理由は「豊富な水」と「広い平野」であると捉えました。しかし、庄内平野の降水量は、稲作を行っている時期に限れば香川県と差はなく、「雪解け水」についての知識が十分でなければ、日照時間が長く温暖な香川県の方が米づくりに適していると考えることが想定されました。そこで、庄内平野の降水量グラフの雪が降る時期を色分けし、その雪が鳥海山などの山脈に積もっていることを写真とつないで提示しました。春になるとその雪が雪解け水となって田畑を潤すことを、先のグラフとつなぎ、色分けした部分を4月以降に移動させることで、稲作が行われている時期に豊富な水があることを捉えさせました。また、その豊富な水をポンプで広い平野の隅々まで送っている庄内平野と、ため池をつなぎ自然の傾斜を利用して送っている香川県とを比べて話し合うことで、それぞれの自然や気候を人々はうまく利用しながら稲作を行い、国民の食生活を支えていることを捉えることができました。



【山形県と香川県を比較】

ふれあい祭り ～保護者とOBと地域の皆さんと～

香川大学教育学部附属養護学校は、昭和53年7月に現在の坂出市府中町に移転し、平成19年4月より附属特別支援学校と改名し、今に至っています。この間、府中町の方々には温かいご支援とご協力をいただき、来年度は創立40周年を迎えるまでになりました。

毎年11月に開催されるふれあい祭りは、この府中の地に移転した年の「学習発表会」と「もちつき大会」から始まり、平成3年に地域との「ふれあい餅つき大会」に発展し、現在の「ふれあい祭り」となりました。この間、地元府中小学校4年生の児童（昭和58年から交流開始）や、連合自治会長、府中ボランティアクラブ、府中青空会、府中しあわせクラブの方々との交流を通して、人の温かさや優しさに触れることができ、本校児童生徒にとっては楽しみな行事となっています。地域の方々への感謝のお祭りとなるように頑張りました。

各学部の様子を紹介します。

プログラム

- 9:00 開会式
- 9:20 ふれあいイベント第一部
小学部発表：府中小学校との交流発表
中学部発表：「六三四・むさし・武蔵」
高等部発表：獅子舞
- 10:00 ふれあいイベント第二部（各学部）開始
小学部：ふれあいゲーム
中学部：ふれあい工作
健康相談コーナー（保健室）～12:00
- 10:30 バザー（食品、提供品）開始
高等部：模擬店「まうんてんぴーち」
- 11:30 ふれあいイベント終了
各学部販売開始
- 13:30 バザー終了



小学部

ふれあいイベント第一部

毎年恒例、府中小学校4年生の友達との合唱・合奏を披露しました。今年の合唱「ハピネス」では、軽快で明るい歌に合わせて、元気でかっこいい振り付けができました。また、合奏「グッデー・グッバイ」では、府中小4年生はピアノ、本校の子どもたちは、キーボード、木琴、大太鼓、小太鼓、タンバリンなどの楽器を使って演奏しました。練習を重ねるごとにリズムに合うようになり、当日はぴったり息の合った合奏ができました。

ふれあいイベント第二部



続いて、府中小4年生と一緒にゲーム大会をしました。「的あて」「魚釣り」「ボウリング」「くじ引き」コーナーをそれぞれのペアグループで一緒に回ります。全部回ったら、抽選会です。くじ引きで引いた自分の番号が出るかどうかと、ルーレットが回るたびに大変盛り上がりました。

このような活動を通して、ペアの友達を理解し、関わり方を学び、仲良くなることができるのだと感じています。



バザー

カレンダー、メモ帳、コースター、壁掛け、クリスマスカードなどの作品づくりに取り組み、販売しました。「いらっしゃいませ。」「ありがとうございます。」「と元気な声で販売ができました。頑張ったご褒美に、売上金でクリスマスケーキを買い、クリスマス集会でいただく予定です。



中学部

ふれあいイベント第一部

毎年恒例となった中学部のダンス、今年は勇壮な和太鼓打ちをイメージし、「六三四・むさし・武蔵」を踊りました。「むさし」で連想する、東京スカイツリー（634m）のようにかっこよく、武蔵坊弁慶のように力強く、武蔵校長先生の応援を受けて、一生懸命踊りました。

最後には、パワーアップタイムAグループが作成した山車も登場して盛り上がりました。

ふれあいイベント第二部

今年は、元附属坂出中学校の理科の先生でいらした前田伸雄先生を講師にお迎えし、親子で仲良く協力して「わくわく工作」にチャレンジしました。ストローや竹ひごなどの、身近にある材料を使って、3種類の動くおもちゃ（ガリガリとんぼ、ヘリコプター、水笛）を作りました。

細かい作業もありましたが、どれも簡単にできて、しかも音が出たり予想外に動いたりするのがとてもおもしろかったです。

バザー

絵織り班はマット、陶芸班はお皿、農耕班は大根やしいたけ、さつまいもを、大きな声を出して売りました。おかげさまで、マットや野菜は完売しました。売上金で、学部の忘年会をして、みんなで楽しむ予定です。



高等部

ふれあいイベント第一部

「コン チーキ チーキ チキ…」の鐘や太鼓の音に合わせて勇壮に舞う『附養獅子』を披露しました。今年で10年目になります。先輩が後輩にアドバイスをしたり、準備や片付けを協力し合ったりして高等部全員で練習に取り組み、その成果を発表できました。地域の伝統行事でもある獅子舞、『附養獅子』は、本校の伝統になりそうです。

ふれあいイベント第二部

模擬店『まうんてんぴーち』は、4年目の営業です。バックヤード係（飲み物や手作りお菓子の準備）、接客係（接客、飲食物の提供、片付け）の役割に、生徒一人一人が責任をもって、友達と協力しながら「お・も・て・な・し」の心で取り組みました。この模擬店の活動は、言葉遣いや人との関わり方を身に付けるよい機会にもなっています。

バザー

家政班（巾着袋、カードケース等）窯業班（湯呑、小鉢等）農耕班（大根、花の苗等）の作業学習で制作した品を販売しました。お客様との関わりを通して働く喜びを感じ、働く意欲につながっています。



CANの日 を満喫！ ～一日かけて探究活動～

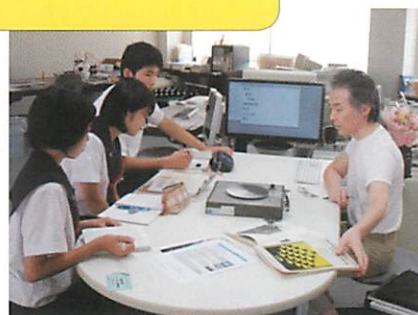
総合学習の目的は「自ら課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する」こと（学習指導要領より）です。教師が学習内容やテーマを決め、教師の指導計画に沿って行う学習でこのような能力は身に付きません。「泳がないと泳げるようにはならない」のと同じで、生徒たちが自らのテーマを決めて探究していくしかないので。それが、クラスター（異学年小集団）による本校の最高の学びの場である「総合学習CAN」です。

9月5日（木）には、一日中探究活動を行う「CANの日」を実施しました。探究を思いっきり楽しむ有意義な一日となったようです。

校内…それぞれのクラスターで実験をしたりテーマを考え直したりしました



校外…探究するための場所に行き、質問をしたり、アドバイスをもらったり、これまでの成果を発表したりしました



NIE (Newspaper In Education) に取り組んでいます！

本年度、NIEの指定校（中学校では県下2校）となり、「語り合う中で自己の『ものがたり』をつむぐNIE」というテーマで活動を行っています。9月に行った全校アンケートでは、新聞を毎日読んでいる生徒は14%、比較して読んでいる生徒は2%でした。既に、あじさいホールに6社の新聞読み比べコーナーを設けたり、授業で新聞記事の比較読みを行ったりしています。この活動を通じ、メディアリテラシー（情報を批判的に読み解き活用する力）を身に付けてくれることを期待しています。



新聞読み比べコーナー



授業の中で新聞報道の意図を話し合い、自分の考えを深めます



特別支援教室「すばる」で活用している教材の紹介

特別支援教室「すばる」では、お子さんの実態や認知特性、興味関心に応じて、様々な教材を作製・工夫し個別指導学習に活用しています。そこで今回は、本教室のスタッフが作製した教材をいくつか紹介したいと思います。

図1：漢字の読み書きが苦手なAさんに対して、漢字の読みを効果的に学習するためのワークシートを作成しました。音韻を意識しやすくするために、平仮名を一マスずつ書くようにしました。言葉の意味も一緒に覚えることで、文脈から読みを想起しやすくなるようにしました。また、活動をスローダウンさせたり衝動性をコントロールしたりするために、書字を見直すための「見直しマーク（図中の反転矢印）」をワークシートに付けました。

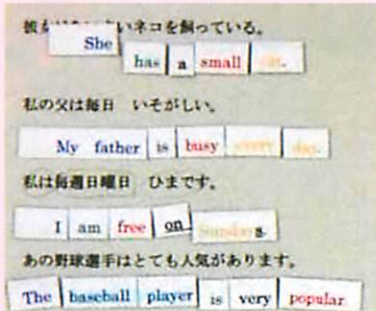


図2 英単語の並び替えカード



図2：英語の学習に困難があるBさんに対して、聴覚よりも視覚の記憶が得意、書くことよりも具体物を操作することが得意などの特性を活かして、色分けした英単語カードの並び替えによる構文の学習を行いました。カードを並び替えることで、アルファベットを書く負担を減らしながら学習に取り組むことができるようにしました。また、英単語を品詞ごとに色分けすることで、日本語と異なる英語の語順に視覚的に親しめるようにしました。

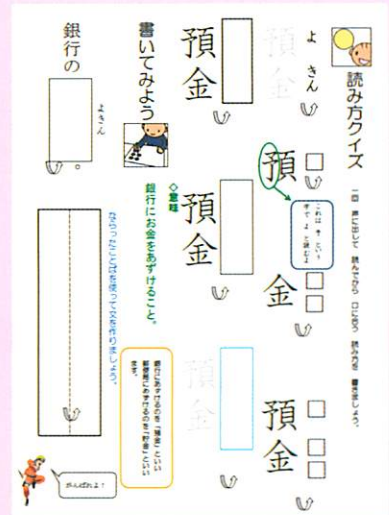


図1 漢字の読み練習ワークシート

小さい「っ」（促音）や、「しゃ」「しゅ」「しょ」（拗音）などの読み書きが苦手な音韻処理が困難なCくんに対して、音を様々な形で視覚化することで音への意識を高める学習を進めました。

図3：促音の位置を理解しやすくする学習では、文字に対応する音の特徴をつかむため、「絵」と「文字」と「●●」を示したカードを用意しました。このカードを見ながら、●（清音）は手を1度たたく、●（促音）は両手をグーにして音を出さないというルールに基づいて動作化し、音を視覚でとらえながら動作によって表現することで音に対する意識を高め、正確な表記につなげられるようにしました。



図4 拗音を含む絵カードの分類

図4：拗音の学習では、例えば、「しゃ」では「し」（大文字カード）と「ゃ」（小文字カード）を別々に用意し、それらを組み合わせた表記を発音するときに「し」と「ゃ」が合わさり、「しゃ」という1音になることを2つの文字カードで表すようにしました。また、拗音を含む単語を示す絵カードを提示し、その単語に含まれる拗音をとらえて、適切な音の組合せに分類する練習をしました。慣れてくると、指導者が発音した「しゃ」「きゅ」「びょ」などを聞いて、Cさんが文字カードを組み合わせたか、文字を書いたりする練習をしました。



これらの教材は、個々のお子さんの認知特性を生かすことはもちろん、好きなキャラクターを取り入れるなどお子さんが少しでも興味関心をもって学習に取り組めるような工夫もされています。本教室では、それぞれのお子さんの学び方に対応したオリジナルの教材、そして少しでも“分かった”“楽しい”と思ってもらえるような魅力的な教材を作製し、支援していくことを大切にしています。

幼稚園より

土曜メンテナンス（11月2日）

今年度は、幼稚園創立80周年という節目の年です。子どもたちからは、「ようちえん、80さいおめでとう」「ようちえんって80さいなの？おじいちゃん、おばあちゃんだね。」などの会話も聞こえ、とても微笑ましく感じられます。

土曜メンテナンスは、80周年を記念して親子作業となりました。たくさんの保護者や子どもたちの参加がありました。幼稚園をもっときれいにしようと、子どもたちと一緒にぞうきんがけや窓ふき、落ち葉拾いをし、親子で楽しい時間を過ごすことができました。



おやつ作り（月に2回程度）

できるだけ自然のものにふれさせたいという思いから、保護者によるおやつ作りの活動を、月に2回程度行っています。季節を感じる果物や野菜を使って、子どもが喜ぶようなメニューを考え、材料の準備から行っています。見た目も子どもが嬉しくなるような可愛い出来

上がりにしています。子どもたちは、おかわりも当たり前のようにして喜んで食べます。そんな様子が嬉しくて、保護者も楽しく活動しています。

おやつ作りを通して、子どもや保護者同士のきずなを広めていき、今後も無理なく楽しく続けていけたらいいなと思います。



小学校より

土曜メンテナンス

10月19日（土）、約40名の保護者・児童・先生が参加して土曜メンテナンスを行いました。今回は、歯ブラシスタンドの調整、グラウンドの土入れ、虫の国のフェンス取替え、サッカーゴール等のペンキ塗りを行いました。

今回の土曜メンテナンスを通じて、学校の設備等がきれいに生まれ変わるだけでなく、保護者にとっても楽しい時間を共有でき、新しい絆づくりの一役を担ったと感じました。

メンテナンス終了後には、懇親会を開催し、保護者間の親睦をさらに深めることができました。

出張メンテナンス

11月16日（土）、特別支援学校へ出張メンテナンスに行ってきました。幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の保護者・児童・先生が参加し、ふれあい祭り（特別支援学校の行事）用駐車場の草刈りを行いました。約60名の参加者が1時間ほど作業を行い、軽トラック5台分の草を刈ることができました。

PTA活動としての特別支援学校出張メンテナンスは、十数年ぶりに実施されたようです。今後も附属坂出学園として、交流を図ることができればよいと感じました。



中学校より

9月7日(土)、附属坂出中学校では保護者による学園のメンテナンスが行われました。

メンテナンスの内容ですが中学校の中庭にある池の清掃となりました。写真でもお解りいただけるように、この日はあいにく朝から小雨が降っており気温もさほど上がらず、肌寒い中行われました。参加人数は保護者が12名、生徒さんのお手伝いが7名、また、先生方や神余PTA会長も手伝ってくださりスムーズに作業が進められました。

手順としてはまず池の水抜き、その後水槽の清掃となりました。約1年ぶりとなるため、池の底や側面は緑色の藻でいっぱいでしたが参加者の協力のもと、たわしや棒ずりで丁寧に壁側をこすりました。また最終的には高圧洗浄機なる秘密兵器まで登場しました。約1時間強の作業でしたが小雨の中、先生方、生徒さん、保護者の連係でスムーズな作業が行われました。そして清掃活動が終了し水入れをしたときは、当初緑色だった池の水が見事に透明になり、水底がきれいに見えるようになりました。

先生、保護者、そして子どもたちの連係がまさしくPTA活動の根幹です。今回は運動会前の土曜日にスポーツではなく、清掃活動を通じて各々のコミュニケーションを図り有意義な時間を過ごすことができました。ご参加いただいた皆様本当にありがとうございました。また、来年も何らかの形で学園活動の運営に微力ですが携われたらと考えています。



特別支援学校より

親和会の活動

「第15回府中湖水のフェスティバル」 10月6日(日)

水への感謝の気持ちを込めて、府中湖で催されている通称「水フェス」。毎年、ドラゴンカヌー大会やバザーコーナー等、多くの方々で賑わっています。本校も出店し、行事部が中心となってバザー販売を行いました。アイスクレームは即、完売し、フランクフルトもみなさんにおいしく召し上がっていただき、完売しました。また、中学部、高等部の生徒の作業販売も行いました。家政班の作ったストラップ、小袋やアームカバー、農耕班の作った小さい多肉植物を窯業班の作った器に入れたものも、とてもかわいいと好評でした。小鉢や小皿も次々と買っていただき大盛況でした。

他にも、各部いろいろなことを行っていますが、すべて保護者の方々和気あいあいと仲良く楽しんで参加して下さっており、力を合わせてとても有意義なものになっています。これからも一致団結して頑張りたいと思っています。

「ふれあい祭りに向けての草刈り」 11月16日(土)



毎年、本校の保護者・生徒・教職員で、ふれあい祭りの際に臨時駐車場となる場所の草刈りを行っています。今年は、松韻会の方々がたくさんお手伝いに来てくださり、親和会と松韻会合同で草刈りを行うことができました。草刈り機や軽トラ等を準備していただいたおかげで、初めは地面が見えないほどの草一面でしたが、約1時間後には、整備された駐車場に生まれ変わりました。お互いに声を掛け合い、顔見知りになれたことが一番の収穫であったと思っています。

このように、楽しく充実した活動ができるのも、親和会や松韻会の保護者の皆様、地域の皆様のご協力のおかげと感謝しています。本当にありがとうございます。

親和会



坂出市教育文化祭で多才ぶりを発揮しました。

10月に坂出市教育文化祭が開催されました。書写や絵画などの作品や自由研究等の展覧会では、本校からも多数の作品が出品され、高い評価をいただきました。また、今年度は体育実技発表会に、「FZK48」(FuZoku) という有志48名によるチームが参加しました。学園運動会でも披露したダンス「百花繚乱」をリメイクして登場し、大きな声援をいただきました。リーダーの3年細川隼登さんは、「附坂中のすばらしさを伝えたくて昼休みの練習もがんばってきました。今日は、仲間と最後のダンスを楽しめました。」と胸を張っていました。さらに科学体験発表会で、「紙コプターの滞空時間」について研究した1年羽原雄希さん、2年原田安美さん、「ゼラチン」について研究した2年永濱珠希さんが坂出市の代表に選ばれ、県の文化祭でも成果を発表しました。



ベルマークを集めています。

附坂中には現在2台のウォータークーラーがあります。部活動中や休み時間での水分補給のために、毎日たくさんの生徒が利用しており、附中生にとってなくてはならないものとなっています。前生徒会役員で3年生の戸倉愛美さんは、生徒自身の力でウォータークーラーを増やそうと考え、全校集会を通してベルマーク集めへの協力を何度も呼びかけてきました。おかげで現在は4万点近く集まり、戸倉さんは「目標の11万点までは遠いけれど、これで学校生活が豊かになれば嬉しいです。」と語っていました。



中学校

附小フェスタが行われました！

11月16日、昨年度は100周年行事のためにできなかった「附小フェスタ」が2年ぶりに行われました。恒例の全校合唱では「たいようのサンバ」など3曲を、大勢の保護者の方を前に披露しました。今年度は練習の時から高学年の子どもの声がよく響いており、例年にも増して迫力のある合唱ができました。



その後、各学年で趣向を凝らした活動が行われました。3年生は社会科で学んだスーパーマーケットの環境保護活動とつないで、「マイエコバッグ作り」に取り組みました。親子でデザインを工夫しながら飾り付け、楽しく買える物ができそうなバッグが完成しました。



6年生はオリジナル劇「思い出の時間へタイムスリップ」を演じました。この6年間にあったさまざまな出来事、授業、行事などを振り返りながら、改めて立派に成長したことを感じさせてくれる発表となりました。



小学校

特別支援学校

第13回全国障害者スポーツ大会
～スポーツ祭東京2013～

10月12日(土)から14日(月)まで東京都で標記の大会が開催され、本校高等部から4名の選手が出場しました。これは国民体育大会の直後に同じ会場で行われる障害者の全国大会で、個人競技の知的障害部門は、香川県から成人者を含めた13名しか出場できないため、出場することが大変難しい大会です。



9月3日には教育学部長を表敬訪問し、激励のお言葉をいただきました。

出場選手は、この大きな大会で練習の成果を発揮し、自己ベスト記録を更新しました。競技結果は次の通りです。



<陸上競技>

高等部第3学年	栗 悠祐	400m	2位
		800m	2位
〃	垣見悠樹	400m	4位
		立幅跳び	5位

<水泳競技>

高等部第3学年	溝口元気	25m自由形	2位
		50m自由形	2位
第2学年	竹川峰遥	25m自由形	3位
		50m自由形	4位

幼稚園

家族と一緒に、いろいろな体験をしました！
プチ作品展

10月30日にプチ作品展を行いました。リズム室で、全園児が揃って歌ったり、全園児の作品を展示したりしました。「見て見て、私のこごよ」とにこにこお母さんの手を引いたり、記念に作品の前で写真を撮ったり、年長さんの作品に親子で憧れをもったりと、親子の微笑ましい姿をたくさん見ることができました。



香川県民いっせいで地震防災行動訓練

11月5日、幼稚園も香川県民いっせいで地震防災行動訓練に参加しました。降園後の園庭解放時に行うことで、親子で訓練に参加できました。参加した皆で、すばやく静かに安全行動をする方法を確認できるよい機会となりました。



保育参加日

11月7、8日は保護者も保育に参加する日でした。親子で一緒にクリスマスグッズやミノムシを作ったり、サッカーや鬼ごっこを一緒にしたり、ピアノをひくお手伝いをしたりしてくれました。

親子でふれ合いながら、汗をかいたり話が弾んだり、子どもの成長を感じたりすることができたようです。



編集後記

9月から12月は、怒涛のごとくたくさんの行事が行われる季節です。その一つ一つの活動を通して、子どもたちはたくましく、そして心豊かに成長しています。幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の子どもたちが、それぞれの学校園で、また、合同の場で、精一杯努力しているときの真剣な顔、やり遂げたときの満面の笑顔にたくさん出会うことができました。この紙面からも伝わってくると思います。そういう子どもたちの姿を目にすることが私たち教職員にとって、至福のときです。

今年も残すところ、あと僅かとなりました。保護者の皆様をはじめ、関係機関の皆様には様々な場でご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

発行年月日：2013年12月20日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 藪内 雅昭 (附属坂出小学校)

小林 理昭 中西 健三 (附属坂出中学校)

伊藤 宏美 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)